

画像等手術支援分科会「3D ハンズオンセミナー」参加報告

札幌医科大学附属病院 平野 透

第33回 日本診療放射線技師学会大会中の9月23日に画像等手術支援分科会による3D作成に関するハンズオンセミナーを開催しました。画像等手術支援分科会は3D画像作成の技術向上並びに手術支援に適した画像の理解などを目的に昨年、日本診療放射線技師会の新たな分科会として発足した委員会で、将来認定技師の輩出を目標としています。この分科会では昨年・今年と全国で認定技師資格獲得のための講習会と学会大会でのシンポジウムを開催してきました。しかし手術支援に適した画像作成に関して座学だけの講習では限界があると考え、今年度の学会大会より「3D ハンズオンセミナー」を開催することになりました。今回のハンズオンセミナーでは肝臓・大血管・脳神経の領域についての1時間半のコースを20名で2クルの開催で十分な参加者の確保が可能と考えていましたが、セミナーの申し込み開始僅かの時間で満員になる程この分科会に対する会員の関心の高さを感じました。私はこの分科会委員であり、今回脳神経領域の自習を担当させて頂きました。今回のセミナーでは最初に各部位で5分程度の座学を行い、その後各部位における基本的な処理方法や各構造物の分離方法などの処理の実習を行い、脳神経領域に関しては脳動静脈分離のアプリケーションの使用法、MRIのデータを用いた脳神経の描出の仕方、CTデータによる脳表の描出方法と前頭側頭開頭の開頭野の作成方法を説明させて頂きました。セミナーではアミン株式会社の協力によりZiostation2を用いた実習を行いましたが、Ziostation2を使った経験がない方も多数参加しておりワークステーションの操作に最初は戸惑っていた方もいましたが、分科会委員やメーカーの方がチューターとなって全員をサポートしたおかげでほぼ全員の方が目標の画像処理を行うことが出来たと思っております。

セミナー開催に関して前日夕方の実習内容やデータの再確認、そして画像処理操作法の共有、そして当日セミナー開始1時間前からの

最終準備など、分科会委員が全国離れた地域にいることから学会大会の会場での準備しか出来なく、準備不足などによりセミナー開催に関して反省すべき点も多くありましたが、画像等手術支援分科会にとってハンズオンセミナーの開催は重要な事業であると改めて感じております。



ハンズオンセミナーの準備風景

次年度山口県で開催する第34回日本診療放射線技師学会大会においても「3Dハンズオンセミナー」の開催を現在前向きに検討中です。次年度開催した場合にはより手術支援に直接関係するような画像処理などの実習を今年度より長い時間確保し、さらに委員による十分な準備を行い充実したハンズオンセミナーを開催したいと思っております。来年、学会大会に参加予定の方で本セミナーに興味がありましたら是非参加をお待ちしております。ちなみに、実習なしでセミナーの見学も今年度はOKでしたよ！